



配布対象飲食店



▲注文したランチと合わせてコースターを受け取る市民

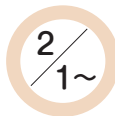


▲2種類のアイヌ文様デザインコースター（左・2月配布分、右・3月配布分）

登別市における令和元年度のアイヌ文化などに関する取り組み例

- ・市立図書館にアイヌ文化などに関する図書等の拡充
- ・公共施設にアイヌ文様タペストリーの設置
- ・登別市中学生ニュージーランド派遣交流
- ・観光資源やアイヌ文化などの情報を発信する（仮称）登別市情報発信拠点施設の整備に向けた基本設計など

登別の地でアイヌ文化を感じる

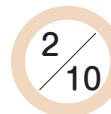


市内飲食店で『アイヌ文様デザインコースター』配布

2月1日(土)から、市内38の飲食店（2月1日時点で、飲食された方を対象に、アイヌ文様を取り入れ、登別を連想させるデザインコースターの配布が始まりました。

市は、現在、アイヌ民族の文化などについて、次世代への承継を確かなものとするともに、地域に存在するアイヌ文化などを発信し、市内外における交流活動を活性化させ、より魅力ある地域社会の形成をめざしています。その一環として、アイヌ民族の文化の普及と市内経済の活性化を目的に数量限定の2種類のコースターを作成。2月に配布したコースターは、登別温泉を連想させる『湯煙』にゆるやかな渦巻き形の形をしている『モレウ文』を施したデザイン。第2弾となるコースターは、市内のテーマパークの一つ、登別クマ牧場を連想させる『クマ』にとげの形をしている『アイウシ文』を施したもので、3月1日(日)から配布を開始します。ぜひ、市内飲食店で食事をして、コースターをもらいませんか。

学校間をつなぐ 先進地視察報告会



2月10日(月)、市民会館で令和元年度幼小連携接続事業として『先進地視察報告会』（市教育委員会主催）を行いました。

今回は、子どもの育ちを小学校卒業までの12年間で捉えて教育を実践している高知県高知市を視察してきた推進リーダーの登別小学校の柳瀬教諭と登別保育所の杉本所長が講師となり、実際に目にしてきた高知市の教育施設間の連携方法などを紹介。

参加した市内の保育所や幼稚園、認定こども園、小・中学校の先生約30人は、先進的な取り組みを行っている高知市の状況などを聞き、現在取り組んでいる幼稚園などと小学校間の連携強化の大切さを再認識していました。



▲視察してきた内容を報告する杉本登別保育所長



▲『源泉湯かけ合戦』では、年男が騎手となって鉢巻きを取り合う

厳寒の湯かけ合戦

2020年登別市市制施行50周年記念
第49回登別温泉湯まつり



2月3日(月)・4日(火)の2日間、源泉公園で『登別温泉湯まつり』（登別国際観光コンベンション協会、市主催）を開催しました。

登別温泉の豊富な湯量と多彩な泉質、湯の効能に感謝し、湯が尽きることのないよう、開運招福と無病息災を祈願して行っているこのまつり。

今年は規模を縮小しての開催となりましたが、4日(火)の夜には、下帯姿の若者約80人が、湯をかけ合いながら勇壮な騎馬戦を繰り広げ、観客から大きな拍手と歓声が送られました。